

平成19年度「地域づくり表彰」 表彰事例概要（8事例）

団体名 道府県名,市町村名	活 動 概 要
認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト 北海道浜中町	1986年に任意団体霧多布湿原ファンクラブを設立し、借地契約による湿原保全活動を開始しました。14年の活動経過後、あらためて霧多布湿原の保全をより確かなものにするため、湿原内の民有地買収、公共財産としての保全を図ることが必要と考え、2000年1月「NPO法人霧多布湿原トラスト」を設立し、全国の人々に呼びかけ、霧多布湿原民有地買収のナショナルトラスト運動を始めました。将来にわたり、私たち自身が自然と調和した豊かな生活を楽しむことが出来るように、霧多布湿原をはじめ、身近な自然の景観や生き物たちの生息環境を残していきたいと活動しています。
桐生からくり人形保存会 群馬県桐生市	国内では桐生にしか残っていないと調査時に絶賛されたからくり人形を復活、活用することを目的に始動し、「桐生からくり人形芝居館」が桐生市指定重要文化財旧矢野蔵群「桐生市有鄰館」内に開設され、活動の拠点となる常設館がスタート。桐生の文化・産業の起点となった天満宮の遷宮1500年記念事業で、初の水車動力による人形芝居を上演、トヨタグループ産業技術記念館開館10周年イベントで上演・展示を行い4000人を超える来場者から喝采を浴びました。また、からくり人形芝居の伝承者養成事業として教室を開講、群馬県のモデル商店街活性化支援事業としての上演等を行ってきました。また、県の地域振興調整費補助金を活用して、移動用舞台を制作し、出張移動公演を行っています。
ハッピーロード大山商店街 振興組合 東京都板橋区	商店街に板橋区と交流のある9つの市町村のアンテナショップとして、特産品販売や観光情報を発信する全国ふれあいショップ「とれたて村」を開設しました（平成18年に2市が追加出展）。売れ筋データや新商品のモニタリング要望があれば、お客様の声をレポートして交流自治体にフィードバックするサービスも行っていきます。このショップを商店街が運営することにより、商店街事業と連携した多彩な事業展開が可能であり、参加市町村が週末に入れ替わりでまちの宣伝にやってきて、商店街全体をイベント会場として「販売」にこだわらない地域交流イベントを開催しています。
特定非営利活動法人 ながおか 生活情報交流ねっと「そいが」 新潟県長岡市	地域のIT支援、まちづくり推進、経済活動の活性化を3つの柱として、市民活動グループなどのITによる情報発信・交流の手助けや、各地域での交流イベントなどを中心に活動しています。2004年、中越地域を襲った水害時には水没した旧中之島町（現長岡市）役場に代わって、簡単に作成できるウェブサイト「ブログ」を立ち上げ災害情報を発信し、中越大地震の際には地域全体が壊滅的な被害を受けた旧山古志村（現長岡市）役場に代わりブログによる震災情報を発信、同じ被災地の旧越路町（現長岡市）でもブログを作成し、役場と情報を共有した官民協力による情報発信を行いました。実績が評価され、長岡市が総務省のICT（情報通信技術）を活用した住民参画システム構築事業のモデル地域に指定され、長岡市と連携・協力しながら運営を行っています。
特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部 滋賀県日野町	地域の水環境文明を明らかにしようと1990年に地域住民が中心となり、水と人のよりよい関係づくり、環境文化に関する体験活動を通して郷土を愛する青少年育成を図ることを目的に、活動の拠点として1996年に築150年の民家を借り受けて「あたらしや学問所」を開設。2003年には廃校になった学校を町から借り受けて里山研究と体験活動及び地域再生の拠点となる「しゃくなげ学校」を開設。さらに、2006年には琵琶湖に浮かぶ沖島に「琵琶湖沖島自然学校」を開設し、これにより日野川の支流・中流・下流を結ぶ「山の学校・野の学校・湖の学校」が誕生しました。2001年に活動を記録した「たんけん・はっけん・ほっとけん」を出版し、現在、環境マネジメント局他、7部局で活動をしています。
NPO法人 かさおか島づくり海社 岡山県笠岡市	島おこしを7島が連携して行う組織として結成され、行政からの補助金をもとに、過疎高齢化の波を受けながら島民の生活に直結するサービスを維持・向上させる事業を展開し、子供の健全育成及び高齢者等の福祉増進に関する事業、IT技術活用等による情報発信や特産品開発等に関する事業、社会教育、文化、スポーツ、人権擁護等に関する事業、都市・漁村交流や安全・安心のまちづくり等に関する事業を主に行っています。幅広い分野での活動を通じ、島という地域性を最大限に活かした事業は、今現在あまり成果の見えるものではありませんが、今後の地域再生という大きな課題がのしかかる中での対応策として、地域づくりに活かされるのではないかと確信しています。
財団法人 清和文楽の里協会 熊本県山都町	伝統農村文化の清和文楽は、嘉永年間（1848～1854）頃、この地を訪れた淡路の人形芝居の一座から浄瑠璃好きな農民が人形を買求め、技術を習ったのが始まりで今日まで子から孫へ継承され、郷土芸能として発展し、昭和35年に県の無形文化財に指定されました。本財団は、旧清和村が清和文楽を村おこしのシンボルとした「文楽の里」づくりを展開し、年間200回程度の公演を行っている九州唯一の文楽専用劇場の清和文楽館、清和高原天文台、清和物産館、郷土料理を詰め合わせた十人重箱弁当が名物となっている郷土料理館の運営を行っており、年間10万人を超す人々がこれらの施設を訪れ、清和文楽が地域のシンボルとして定着し、清和文楽の伝承、地域経済の活性化等がなされています。
大隅の國やっく松山藩 鹿児島県志布志市	源平合戦に敗れた平重頼の末孫現代に生きる若者達が知恵と勇気を限りなく出し尽くし、地方の隆盛を再び呼び起こし、松山町に新たな活力と富を呼び起こしていこうという設定で、様々な業種、様々な考え方を持った若者が互いに知恵を出し合い、視野の広い地域づくりを展開し、自らの仕事や生活に活かすことを目的に「秋の陣まつり」を開催しています。城下町風に統一された会場は、若者だけで1ヶ月をかけて制作・組立し、自ら企画したものを自らの手で実施します。また、定例企画会議を開催し、「若者が住みたくなるまちづくり」とは何かをメインテーマにあげ、あらゆる分野の検討・協議を行っています。その他、春の陣まつりやその他のまつりへの参加など様々な面で活動しています。